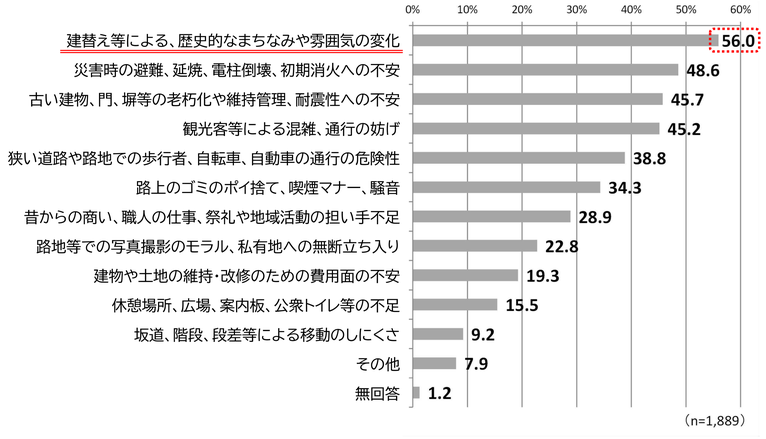
問3　まちなみや暮らしの中で感じる「変化や課題、将来への不安」について

【問3－1】 谷中地区のまちなみや暮らしについて、気になる変化や困りごとはありますか。（あてはまるもの【すべて】に○）

「建替え等による、歴史的なまちなみや雰囲気の変化」が最も多く選ばれました
次いで、災害への不安、建物等の維持管理等の不安、観光客による困りごとが選ばれました

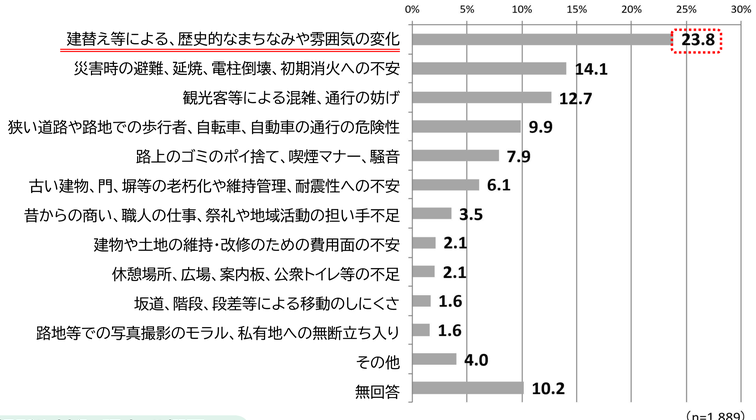
「建替え等による、歴史的なまちなみや雰囲気の変化」が56.0%と最も多く、次いで「災害時の避難、延焼、電柱倒壊、初期消火への不安」が48.6%、「古い建物、門、塀等の老朽化や維持管理、耐震性への不安」が45.7%、「観光客等による混雑、通行の妨げ」が45.2%である。



【問3－2】 問3－1で選んだもののうち、あなたが【最も気になるもの】を1つだけ選び、番号を記入してください。もし、具体的な場所や状況があればご記入ください。

「建替え等による、歴史的なまちなみや雰囲気の変化」が最も多く選ばれました

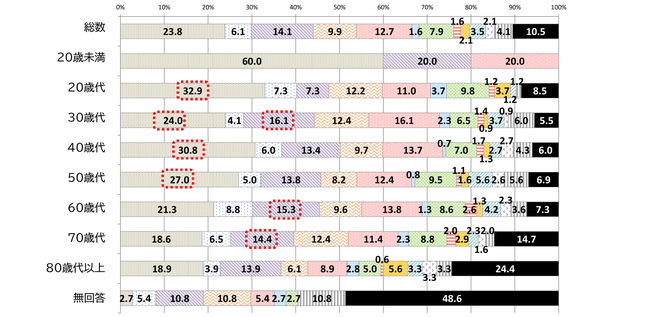
「建替え等による、歴史的なまちなみや雰囲気の変化」が23.8%と最も多く、次いで「災害時の避難、延焼、電柱倒壊、初期消火への不安」が14.1%、「観光客等による混雑、通行の妨げ」が12.7%、「狭い道路や路地での歩行者、自転車、自動車の通行の危険性」が9.9%である。



【問3-2】のクロス分析

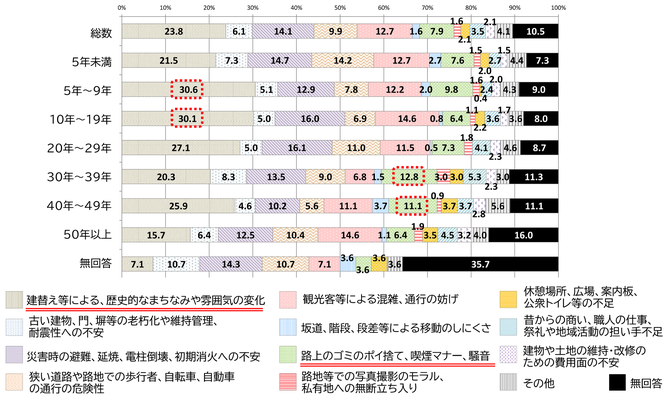
年代別 集計

- 20歳～50歳代で「建替え等による、歴史的なまちなみや雰囲気の変化」と答えた人が多い。
- 総数と比較して、30歳代と60～70歳代が「災害時の避難、延焼、電柱倒壊、初期消火への不安」が多い。



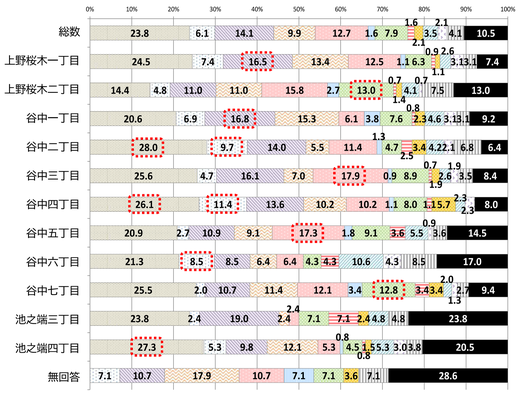
居住年数別 集計

- 5年から19年までが「建替え等による、歴史的なまちなみや雰囲気の変化」と答えた人が多い。
- 「路上のゴミのポイ捨て、喫煙マナー、騒音」については、「30～39年」(12.8%)、「40～49年」(11.1%)と比較的高い。



町丁目別 集計

- 「建替え等による、歴史的なまちなみや雰囲気の変化」は谷中二丁目(28.0%)で最も高く、池之端四丁目(27.3%)、谷中四丁目(26.1%)が続く。
- 「災害時の避難、延焼、電柱倒壊、初期消火への不安」については、池之端三丁目(19.0%)が最も多く、谷中一丁目(16.8%)、上野桜木一丁目(16.5%)が続く。
- 「観光客等による混雑、通行の妨げ」は谷中三丁目(17.9%)、谷中五丁目(17.3%)で比較的高い。
- 「路上のゴミのポイ捨て、喫煙マナー、騒音」については「上野桜木二丁目」(13.0%)、谷中七丁目(12.8%)で比較的高い。
- 「古い建物、門、塀等の老朽化や維持管理、耐震性への不安」については、「谷中四丁目」(11.4%)と「谷中二丁目」(9.7%)、「谷中六丁目」(8.5%)で比較的高い。



具体的な場所や対象・理由 の概要

建替え等による、歴史的なまちなみや雰囲気の変化
夕焼けだんだん、谷中銀座、へび道、よみせ通り、朝倉彫塑館通りなど

古い家屋・長屋・個人商店が取り壊され、マンション、狭小建売、チェーン店など画一的な建物や店舗へ変わることで、空の広さ、眺望、下町らしさ、地域コミュニティが失われるとの危機感があるとの声が多い。
特に谷中銀座周辺、へび道、よみせ通りへの言及が多かった。
高さ・外観・土地分割への規制、改修助成、地域に根差した店舗の継承、隣接区と連携した景観保全が望まれている。

災害時の避難、延焼、電柱倒壊、初期消火への不安
谷中2～3丁目の木密地域、へび道、よみせ通り周辺、狭い路地・電柱など

木造住宅の密集、消防・救急車両が入れない狭い路地、電柱・電線の倒壊、避難路の閉塞、延焼と初期消火への不安が強い。谷中2～3丁目、へび道、よみせ通り周辺などが多く挙げられ、路地の風情が魅力である一方、防災上は「もろ刃」と認識されている。無電柱化、不燃化・耐震化、障害物撤去、消火用水や避難案内の充実、緊急車両経路の確保、住民連携と高齢者支援を、景観を壊さず進めることが望まれている。

観光客等による混雑、通行の妨げ
谷中銀座、よみせ通り、住宅地・路地、日暮里駅周辺など

観光客が道いっぱいに広がる、急に立ち止まる、店舗の行列が歩道を塞ぐ、住宅地や私有地へ入り込むなど、生活道路の混雑と安全低下への不満が多い。谷中銀座、よみせ通りが集中地点で、買物や通勤時に住民が遠回りする状況もある。食べ歩き、騒音、民泊客、団体客・観光バスへの懸念も含まれ、歩行ルールの多言語周知、行列管理、車両・団体客の抑制、民泊管理、住民生活を優先した観光受入れが望まれている。

狭い道路や路地での歩行者、自転車、自動車の通行の危険性
言問通り、朝倉彫塑館通り、よみせ通り、へび道、寛永寺陸橋など

狭い歩道・路地に歩行者、自転車、電動モビリティ、車が混在し、速度超過、逆走、路上駐車、電柱や植木鉢、店舗行列で危険が増している。特に言問通りと朝倉彫塑館通りへの指摘が多く、通学する子ども、ベビーカー、高齢者の安全が懸念される。自転車・車両ルールの取締り、速度抑制、車両規制、路上障害物の撤去、無電柱化、歩行空間や自転車レーンの確保など、ウォーカブルな地域にふさわしい安全対策が望まれている。

路上のゴミのポイ捨て、喫煙マナー、騒音
日暮里駅周辺、谷中銀座・よみせ通り周辺、言問通り、住宅地など

古い建物、門、塀等の老朽化や維持管理、耐震性への不安
寺院の塀・石垣、三浦坂、谷中2～3丁目、上野桜木、空き家など

昔からの商い、職人の仕事、祭礼や地域活動の担い手不足
谷中銀座・よみせ通りの老舗、豆腐店・八百屋・職人、町会・祭礼など

建物や土地の維持・改修のための費用面の不安
自宅・古い店舗・空き家、借地、擁壁、あかじ坂・言問通り周辺など

休憩場所、広場、案内板、公衆トイレ等の不足
谷中銀座、よみせ通り、谷中霊園、根津・千駄木・谷中2丁目周辺など

坂道、階段、段差等による移動のしにくさ
日暮里駅南口、三段坂・御隠殿坂・芋坂・夕焼けだんだん、鶯谷駅周辺など

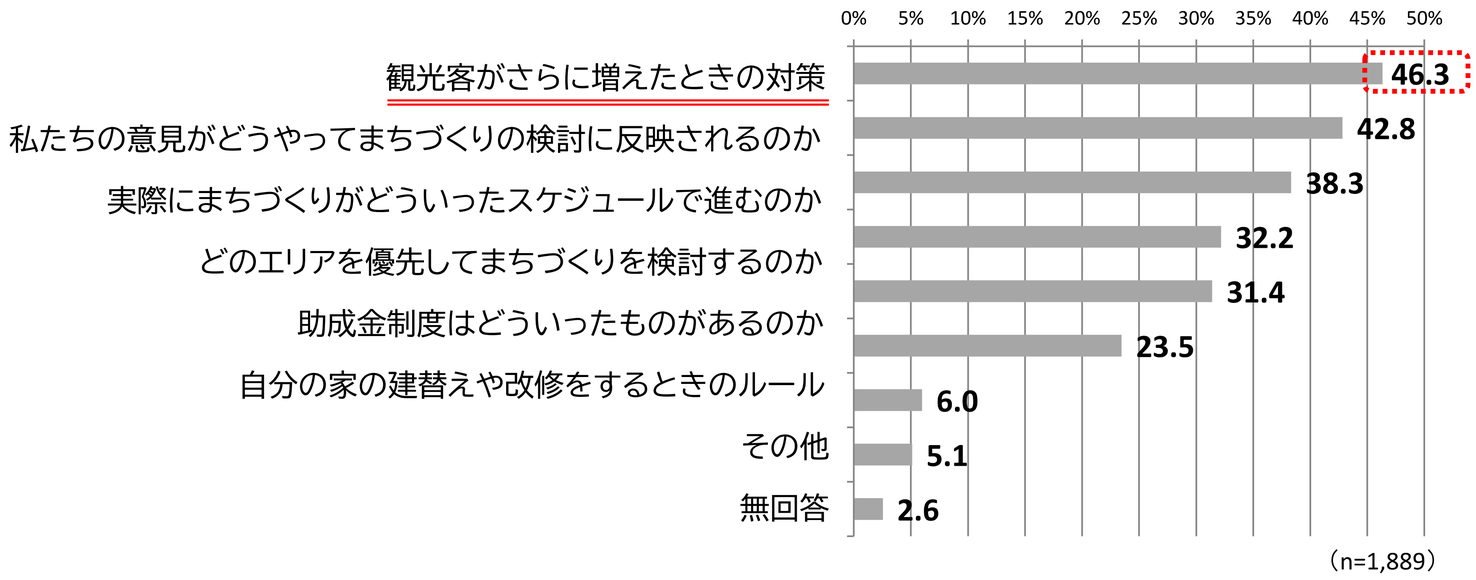
路地等での写真撮影のモラル、私有地への無断立ち入り
谷中霊園・墓域、初音小路、上野桜木の路地、個人宅・私有地など

その他
民泊、上野桜木・谷中3丁目、言問通り、夜店通り、地域全域など

問4　まちづくりの進め方について

【問4】 区がまちづくりを進めていくにあたり、関心があることは何ですか。（あてはまるもの【すべて】に〇）

「観光客がさらに増えたときの対策」が46.3%と最も多いです



問5　そのほかのご意見やご要望について

そのほか、ご意見やご要望がありましたら、教えてください。（自由記述）

自由回答の分類	主な意見
まちづくりの進め方・住民参加・　行政への要望	まちづくりの目的・全体像・具体的なゴールや進捗を明確にし、アンケート結果や意見交換会の内容を広報・紙面・Webで継続的に公表してほしいという声が中心。オンラインや手紙など参加手段を増やし、年代や立場に偏らず住民意見を公平に反映すること、行政が開発任せにせず実効性ある施策を早く進めることが求められている。変化を一律に否定せず、歴史・暮らし・活性化のバランスを取る視点も挙げられた。
町並み・歴史的建物の保全	寺町、路地、坂、古い家屋、塀、緑、低層の街並みが谷中固有の価値であり、マンションや狭小住宅、画一的な建替えで「どこにでもある街」になることへの危機感がある。 古建築の保存・改修・活用、景観に合う色彩や外観ルール、解体・乱開発への規制、所有者への助成を望む声が多い。一方で耐震化や生活利便との両立、住民・行政・企業および隣接区が連携した長期的な地域全体の保全が必要とされている。
道路・歩道・交通安全	狭い道路・歩道、電柱、植木鉢や路上駐車、店舗の行列、工事車両などにより、歩行者・子ども・高齢者・車椅子利用者の安全が損なわれているとの指摘が多い。無電柱化、道路補修、セットバックの徹底、障害物撤去、自転車レーンや横断歩道の整備、車両規制・見回りを求めている。特に言問通りや通学路、狭隘路では、景観や路地の魅力を残しつつ消防・救急活動と日常の安全を確保する対策が必要とされている。
建物の高さ・開発規制	高層マンションや大手事業者による狭小開発が、空の広さ、寺町の景観等の眺望を不可逆的に損ねたとの意見が中心。絶対高さ制限、低層化、外観ルール、建築計画の早期周知など、条例等による強い規制を求める声があった。 老朽建物の更新や無秩序な建替えを防ぎ、隣接区とも基準を共有することが期待されている。
防災・耐震・火災対策	木造住宅の密集、狭隘道路、消防・救急車両の進入困難、電柱倒壊や延焼への不安が大きく、景観保全より命を守る対策を優先すべきとの声もある。耐震・防火改修、道路上の障害物撤去、インフラ・排水の強靭化、避難地図や井戸情報の整備、感震ブレーカー等の支援が求められている。独居高齢者の避難支援や町会防災の担い手不足も課題で、街並みを残しながら実行可能な防災体制が求められている。
商店街・生活店舗	谷中銀座等で観光客向け飲食店やチェーン店が増え、昔ながらの個人商店、専門店、スーパーなど住民の日常を支える店が減ったことへの不満がある。食料品店や大型スーパー、手頃な飲食店の不足により、地域内で生活が完結しにくいとの指摘もある。個人店の家賃・事業承継支援、生活密着型店舗の誘致などを通じ、観光と地域生活のバランスをとることが求められている。
観光客による混雑・マナー	観光客の増加により、騒音、ポイ捨て、私有地・墓地への立入り、路上での滞留や食べ歩き、通行妨害が住民生活を圧迫している。特に住宅地、谷中銀座、店舗の行列周辺で、静かな生活環境と安全が損なわれることへ懸念が大きい。 観光客数や車両の抑制、マナー周知・指導、周辺自治体との連携を進め、文化や建築を尊重する観光と住民優先の暮らしを両立させることが望まれている。
ごみ・喫煙・生活マナー	食べ歩きごみ、吸い殻、空き缶、犬のふん、収集日外のごみや不法投棄などが目立ち、住民の清掃努力に依存しているとの声が多い。歩きたばこや受動喫煙、騒音も問題視されている。店舗ごとのごみ箱、回収場所・頻度の見直し、喫煙禁止の徹底、多言語でのルール周知など、継続的な美化・マナー対策が求められている。
住宅・空き家・土地問題	空き家・空き店舗の管理不足が防犯、美観上の問題となる一方、地価・家賃・相続税の上昇や物件不足により、若者・子育て世帯・長期居住者が住み続けにくい状況が指摘された。空き家の修繕・流通、区民への優先情報、手頃で適度な広さの住宅、借地・境界問題への支援が求められている。歴史的な家や店を手放さず継承できる助成制度も重要とされている。
民泊・宿泊施設	住宅地での民泊増加に対し、騒音、ごみ、交通マナー、無届け営業、投資目的の運営によって静かな暮らしや街の雰囲気が損なわれるとの懸念がある。無届け施設の取締り、独自条例や禁止区域、宿泊者への多言語ルール周知を求めている。インバウンド受入れ自体を否定しない意見もあるが、ホテル誘致と組み合わせ、区全体で計画的に民泊を規制する方針の明示が必要とされている。
多文化共生	外国人観光客・居住者の増加や不動産取得をめぐり、ごみ出し、騒音、路上駐車、生活習慣、治安、地域コミュニティへの不安が挙げられた。感情的・排他的な意見も含まれる一方、課題の中心はルールの周知と遵守、施設・土地利用の適正管理、住民間の挨拶や意思疎通にある。国籍で一括りにせず、多言語案内、定点確認、違反への公平な対応など、地域の秩序を守りながら共生できる仕組みが必要とされている。
子育て・高齢者・福祉	高齢化への対応として、単身高齢者向け住宅、介護施設、移動支援、身近な講座・交流拠点の充実が求められている。子育て面では、自然・文化・見守り環境が評価される一方、児童館の運用、子どもの声への理解、遊び場、若い家族が定住できる住宅価格が課題。スポーツ・学習・福祉サービスを配置し、子どもから高齢者まで住み続けられる地域にすることが望まれている。
地域コミュニティ・町会	挨拶や顔の見える関係、新住民との接点、世代間交流を大切にし、町会・祭礼・防災活動を将来へつなぐ必要がある。町会役員の高齢化や会員減少、一部への負担集中に対し、行政の予算支援や消防団員の確保を求める声がある。
緑・樹木・自然環境	谷中霊園や路地の樹木、土、広い空は、景観だけでなく暑熱・ヒートアイランド対策や心身の安らぎに重要との意見があった。街路樹や花を増やし、古木伐採後は植え直してほしいとの要望がある一方、倒木リスクや道路にはみ出す枝など管理上の課題も指摘された。安全な更新・剪定と計画的な植樹を両立し、緑量を減らさない管理が望まれている。
公園・トイレ・休憩施設	観光客と高齢住民の増加に対し、公共トイレ、ベンチ、休憩所が不足している。公園や広場は整備するだけでなく、日陰・タープ・樹木など猛暑時にも利用できる設計が必要との声がある。子どもの遊び場、ペットが過ごせる場所、災害用井戸や給水機能など、日常と防災を兼ねる公共空間が求められている。
防犯対策	観光客や人の出入りが増える中でも、静かで治安の良い街を維持したいという意見が中心。路地、通学路、空き家周辺への防犯カメラ・街灯・カーブミラーの増設、建物への防犯設備導入を求めている。空き家や伸びた植栽の管理も含め、死角を減らし、子どもや住民が安心して歩ける環境整備が必要とされている。
公共交通	日暮里駅と谷中五丁目を結ぶ小型循環バス、めぐりんの乗継改善など、駅や買物先への移動手段の充実が求められている。高齢者や移動が困難な住民にも使いやすい交通環境が課題となっている。
祭礼・文化・芸術活動	盆踊りや祭礼は谷中らしい伝統として継承したい一方、猛暑時の開催方法、運営の担い手、音楽や騒音への配慮が課題。文化・芸術を台東区の特色として重視し、住民が美術行事等に参加・協力できる機会や、祭事の運営・継承方法を知る場を設けることが期待されている。
建物の整備・保全	老朽化した公共施設は必要に応じて更新しつつ、古い建物や寺院を保護・整備して街の雰囲気を維持したいという意見。大名時計博物館のリニューアルなど文化施設の再生も挙げられた。整備方針は複数案を段階的に比較・絞り込み、住民意見、予算、期間を透明に反映する進め方が望まれている。
寺社・墓地・文化資産	寺町の文化資産を活用・継承するため、五重塔の再建検討、お寺カフェなど寺院に親しむ取組が提案された。また寺院が維持する緑地の公益性を踏まえ、大量の落ち葉処理など管理負担への支援の要望もあった。
伝統・技術継承	昔からの商い、職人、伝統的な仕事の担い手を育てるため、荒川区の匠育成事業を参考にした支援制度を台東区でも導入し、東京藝術大学等と連携して希望者の育成につなげてほしいという提案。
その他	民泊、建替え、観光、交通・公共空間、町の歴史、地域猫、他区との連携など多岐にわたる意見が寄せられた。 谷中の歴史的価値を生かしつつ、観光だけでなく住民の安全・利便・防災・コミュニティを優先し、現状の維持と生活基盤の改善、新たな価値の創出を両立する総合的なまちづくりが求められている。

アンケート調査のご協力ありがとうございました。いただいたご意見を参考に、まちづくりを進めていきます。